歴史の道をゆく

風はるか、秋田藩の羽州街道

④檜山から矢立峠まで

「武士の町檜山」を抜けると、羽州街道は檜山の松並木で能代道との追分にかかる。土地の人に殿様街道とも呼ばれた街道は、田床内から鵜形に山越えする。羽州街道が現国道と交差する鵜形の交通神社の奥側に、藩政時代の遺構をそのままにとどめる鴨巣の一里塚がある。鵜形には米代川舟運の通航を改める足軽御番所が置かれ、水陸双方の交通の要所となった。鵜形から米代川氾濫原のへりを進んで富根(二ツ井町)に入る。

そこから旧街道は、半里ほどの鳥野峠を越えて米代川渡しのある切石に出る。ここには塩井や兜神社がある。米代川を渡ると、街道は薄井村、比井野村へと続く。この両村は藩政期、秋田藩家老梅津政景の新田開発で生まれた。藤琴川から引水する岩堰開削の功績は大きく、政景は後に岩関神社に祀られた。二ツ井は、薄井と比井野の両方の井を合わせた地名となった。

❶

❷

❸

❹

秋田領北部は、特に川との付き合いが多く、「荷上場小繋間かち道なし」という藤琴川の徒渡りや米代川の渡船による一里の渡しがあった。参勤交代で津軽藩主は、この難所を通過したことを、特に飛脚を使って国許に知らせるほどだったという。この付近は今、きみまち阪の景勝地として有名だが、昔は畚生坂、馬上げ坂、郭公坂などと呼ばれていた。

舟着場の小繋から阿仁川合流点に近い天神に進むと、古代、阿倍比羅夫通航にもちなむ七座神社がある。羽州街道は、小繋から六文坂、鳥越坂を通り、大堤のある今泉村(鷹巣町)に進む。鷹巣地内では前山を過ぎた坊沢に歴史的な逸話が残されている。享保一〇年(一七二五)、村の肝煎と対立し窮状を藩主に直訴しようとした坊沢村の首謀者五人が処刑された首切塚(五義民碑)が残り、永安寺にはその供養の首なし地蔵もある。

❺

この先、大太鼓の里で知られる綴子は、秋田藩主や参勤交代津軽侯の宿所となった本陣があり、高橋八郎兵衛家と藤島藤助家がそれに当たっていた。綴子本村を抜けると大堤に一里塚があった。それは今も金十郎岱と境して旧道に残っている。

秋田渡りの藤沢川を越えると、戸潟神社の後方に明治新道が残っている。それから長坂を越え早口に進む。長坂の峠には茶屋と一里塚があったという。早口川の渡しがある坂地は四の日の三斎市が開かれた物資の集散地で、対岸の出口とともに栄えた。

田代町の中心である早口では岩瀬に至る深沢掛け上がりや杉子沢に往時の名残がある。岩瀬には、江戸前期の元禄年間、伊勢松坂から移住した豪商伊多波武助の屋敷跡がある。米代川と早口川、岩瀬川の水運を利用し鉱山経営と御用船手配で財をなした人である。

❻

❼

❽

幕府巡見使に随行した古川古松軒の『東遊雑記』に、「佐竹丹波の在所なり。知行高七千石といえども広々として三万石もあるといふ」と記された大館は川口、立花を通り、長木川を渡ってその城下に入る。大館は戦国末期、浅利氏や秋田氏の支配の下にすでに町としての体裁を整えていたが、慶長七年(一六〇二)佐竹氏が秋田に入って六年後、小場義成(佐竹西家)が大館城代になって町作りがなされた。城下の街道は大館神明社から足軽町の常盤木町を通り、外町の鍛冶町や大町、田町を通過した。再び長木川を渡り、釈迦内に道は延びたが、釈迦内の実相寺にある釈迦堂は鎌倉時代、北条時頼の回国伝説をもつ。

下内川に沿って北上する羽州街道は、白沢の旧御番所から長走の御番所を通り、陣場、矢立峠に向かった。矢立峠は津軽と秋田の国境であり、院内杉峠から延々と続いた秋田領羽州街道はここで終わりを告げる。

しかし、矢立峠を越えて津軽領に入った羽州街道はさらに続き、碇ヶ関、弘前、浪岡を経て、奥州街道筋の油川に至り道の終わりとなる。羽州街道には、菅江真澄、古川古松軒、高山彦九郎、吉田松陰、イサベラ・バードなど、多くの文人墨客が貴重な紀行、記録を残してくれている。

❶能代市中母体地区にある中母体共同火葬場跡
江戸年間の大飢饉で餓死した人々を、この場所で火葬にした。

❷鴨巣一里塚
道の両側の塚に植栽された赤松が対になって残っている。秋田県内では珍しく藩政時代の原形を保つ貴重な一里塚である。

❸加護山製錬所跡と銭座跡地
藤琴川の東岸に阿仁銅山でとれる銅から銀を製錬するために安永四年(一七七五)加護山製錬所が作られ平賀源内の指導の下製錬を行った。また、ここでは当百銭など独自の通貨が鋳造された。

❹綴子神社
社前に千年桂の大木があり神社の祭典には世界一を競う大太鼓が繰り出すことでも知られている。

❺蓑虫山人の描いた「北秋田郡大館町風景」
美濃(岐阜県)生れの蓑虫山人は明治20年頃から秋田県内を旅して風俗や景色を描いた。(山田福男氏撮影)(「蓑虫山人全国周遊絵日記」名古屋市長母寺蔵)

❻桂城跡
織豊期に浅利氏、秋田氏、佐竹氏入部後は小場氏と子孫が居城した桂城は大館城とも呼ばれる。

❼釈迦内萩長森の西側を通る街道
旧街道の面影が残る鳥居の付近には寛政九年(一七九七)の文字が刻まれた湯殿山石塔があり、また近くには芝谷地湿原植物群落などもある。

❽赤湯薬師堂
矢立峠近くの旧国道の丘の上にある。街道は旧矢立峠近くでは、どのあたりを通っていたのか、今では判然としなくなっている。